ひょうご経済

■経済部

TEL… 078-362-7094
FAX… 078-360-5511
e-mail… keizai@kobe-np.co.jp

地を担う 16

組織的農業で販路拡大

株式会社アグリヘルシーファーム（丹波篠山市）

「仕事も休みも充実させて、従業員を幸せにしたい」。アグリヘルシーファーム（丹波篠山市）の原智宏社長(43)が大切にしている考え方だ。

休日は年108日確保する。秋の収穫時は数時間残業する日もあるが、年平均は1人1日約10分にとどめる。「みんな、平日のゴルフや2週間の海外旅行に行ってますよ」

業務内容が天候や季節に左右される農業は一般企業と違い、労働時間や休日の規制はない。それでも「普通の会社にできて、うちにできないはずがない。農業を就職先として選ばれる産業にしたい」と強調する。

大学を卒業した2001年、専業農家の父の下で就農した。仕事はきつく、賃金はわずかだった。組織的な農業を目指して法人化を提案し、同年12月に農事組合法人を立ち上げた。

5年間、朝から晩まで農地に出て、父がこだわってきた土作りからの有機栽培を教わり、27歳で代表に就いた。

昨年秋に収穫した玄米を精製するアグリヘルシーファームの原智宏社長＝丹波篠山市味間奥

14年に経営方針を見直し、手間の掛かる茶作りから撤退する一方で、比較的育てやすい地元特産の黒大豆、枝豆の栽培を増やした。兵庫県立農業大学校の卒業生や就農イベントで出会った6人を社員に迎え入れ、品質向上に努める。原さんは営業に専念し、育てた作物の大半を自社で販売している。

19年には株式会社化した。販売先は、京阪神の飲食店や旅館など約100カ所に拡大し、自社サイトの個人客は500人余りを数える。

高齢農家からの耕作依頼が相次ぎ、手掛ける農地は就農時の8倍の80㌶に広がった。2年後には100㌶、売上高2億円を目指す。「農業に携わる人を増やしたい。農地だけでなく篠山を守るために」。地域の将来をも見据える。

（山路 進）

設立	2001年農事組合法人、19年株式会社
資本金	300万円
経営面積	80㌶
スタッフ	役員3、正社員6、非常勤2、農繁期はパート、農福連携も
生産品目	主食用米140㌧、加工84㌧、黒大豆枝豆14㌧、黒大豆6㌧＝21年度
売上高	1億4500万円＝同